

優秀賞

## サービスエリアのトイレから

静岡県 島田市立島田第三小学校五年 鈴木 ひまり

「見てーきれー！ホテルみたい！」

夏休みに、山形へ向かうために高速道路を走っていた私たちの家族。休けいのために立ちよったトイレの洗い場で、私は母と顔を見合わせ、そう言いました。洗い場の鏡の前に、まるでお正月のときにかざる生花のようにすてきなお花が、センスよく生けてあったのです。お花だけではありません。手洗い場が、こんなにきれいにそうじされているのを見たのも初めてでした。「このお花はだれがかざっているのだろう」。そう思い、あたりを見回しました。すると、手洗い場をそうじしてくれている女性がいることに気が付きました。その女性は、はい水せんを取り外し、細かなすきまに入りこんだゴミをブラシでゴシゴシとこすって取っていました。正直、そこまでやってくれていたとは知りませんでした。

女性は、鏡や手洗い場の台に飛び散った水てきを

一つぶ残さずピカピカにみがきあげていました。それを見て、わたしは、水がなるべく飛ばないようにいつもより気を付けて手を洗いました。そして、少し勇気を出して、

「ありがとうございます。」

とお礼を伝え、トイレを出ました。

これまで何度か休けいで利用してきたサービスエリアのトイレ。山形までの約六時間の車い動でつかれていたはずなのに、こんなさわやかな気持ちになったのは初めてでした。今日ここに来てよかったな、また、ここを利用したいな、これからはもっともつときれいに使おうと心から思いました。

山形の父の実家へ着くと、祖父母が私たちを温かくむかえてくれました。そして、祖父母宅のトイレにも、一輪のつゆ草がかざられているのに気付きました。私の祖母も、サービスエリアで出会ったあの

女性と同じように私たちのためにしてくれたことなんだと気付き、私はとても温かい気持ちになりました。

帰路でも、安積サービスエリアによってみました。上りのトイレにもまたちがったお花がかざられていて、トイレの中も清潔感いっぱい感じられました。そして、数日前に見た、あのそうじをしてくれた女性のがすが目にうかんできて、「ありがとうございます。使わせていただきます」と、感謝の気持ちがあふれてきました。そして、いつも以上にきれいに使う自分がいきました。

日本には「おもてなし」といって、相手を思い、心をこめて接したり準備したりする文化があることを母から聞きました。あの女性がそうじしてくれたトイレは、毎日、何千何万という大勢の人々が利用します。自分の知らないだれかのために、おもてなしの心でそうじができるってすてきな人だなと思いました。あのきれいになったトイレや手洗い場を見て、きつただれもがきれいに使おうと思うのだと思います。わたしも、そういうおもてなしができる人になりたいと思いました。

